

(2)大山崎地区公園整備計画の 一部修正について

1

①現状の公園整備計画

現状の淀川河川公園大山崎地区公園整備計画における開園検討箇所の整備計画は、以下のようにになっている。

1. 開園区域の拡大 (つながりの改善)
 - ・隣接する桂川河川敷公園との一体的な利用を促進するため、開園区域を拡大し、多目的広場を整備する



2

②開園検討箇所の現在の状況



3

③大山崎地区周辺の自然環境特性

- ・開園検討箇所にはオギ群落が形成されている。
- ・オギは、水辺を代表する植物の一種であり、オギ群落はカヤネズミ等の哺乳類やオオヨシキリ等の鳥類が好む自然環境を提供している。
- ・大山崎地区の周囲は、ヒメボタルの生息が確認されており、淀川管内河川レンジャーや地元の市民団体による観察会が継続的に行われている。

4

④淀川河川公園の整備方針

(出典:淀川河川公園基本計画)

「淀川河川公園基本計画」に示された淀川河川公園の整備方針には、以下のよう
に記載されている。

整備方針 (2)淀川の自然環境の保全・再生を図る

河川の横断及び縦断方向での自然環境の連続性に留意しながら、自然環境の
ネットワーク及び淀川の特徴ある水辺の景観が保全・再生されるよう、水際におけ
る河川形状の修復などにより、干潟や砂州、ヨシ原、ワンド、たまりをはじめとする
水陸移行帯や淀川固有の生物が生息・生育できる場の保全・再生を図る。

5

整備方針 (3)淀川らしい利用ができるようにする

(出典:淀川河川公園基本計画)

① 淀川の自然環境と利用との調和を図る

水とのふれあいなど河川の魅力を発揮し、淀川ならではの空間特性を活かした利用な
ど、淀川の自然環境を次世代に引き継ぐことができる、すなわち持続可能な利用がなさ
れるよう、社会動向の変化、周辺の都市の状況、地域住民・利用者のニーズや意見を
踏まえ、**地区ごとの特性を考慮しながら淀川の自然環境と利用との調和を図る。**

② 淀川の自然環境の中で水に親しみ、憩う場をつくる

淀川の自然環境の特性を損なわないよう留意しつつ、地区ごとの特性を活かし、水辺
での水遊びや**自然観察**、原っぱでの遊びや運動、休憩、**散歩**など様々な形で**淀川の自
然環境**の中で水に親しみ、憩う場をつくる。

③ 淀川全体をつなぐ・まちと淀川をつなぐ

水辺の風景を楽しみながら散策やジョギング、サイクリングなどが行えるよう、淀川全体
をつなぐとともに、周辺の都市におけるまちづくりと連携を図り、周辺の地域と淀川にま
つわる歴史・文化資源の散策・周遊・サイクリングのルート設定や、広域避難地としての
役割を担うなど、まちと淀川をつなぐ取り組みを行う。

④ 淀川の水辺の景観を楽しめる場をつくる

水辺越しに見える都心部の眺望景観、背景の北摂連山や天王山、男山、生駒山地など
の山なみと一体となったおおらかな景観等との調和を図りながら、**淀川の水辺の景観を
楽しめる場をつくる。**

6

⑤大山崎地区の開園検討箇所の整備の考え方

- ・対象地区にはオギ群落が形成されている。オギは典型的な水辺の植物であり、カヤネズミやオオヨシキリ等の水辺に生息する生物の生息環境を提供している。
- ・淀川河川公園の公園区域内でまとまったオギ群落が存在している例は他にほとんどなく、公園利用者が水辺の自然環境にふれることができる場となりえる。
- ・大山崎地区の周囲にはヒメボタルのまとまった生息地が存在し、観察会が継続的に行われている。



上下流方向の自然環境の連続性や淀川らしい水辺の景観に配慮し、オギ群落の改変を伴う「多目的広場の整備」を見直す。

7

策定済みの大山崎地区公園整備計画を、以下のように修正する。

◆整備方針

○大山崎地区と、下流側に隣接する桂川河川敷公園との間の空間を、**今ある自然資源(オギ群落等)を残しつつ、自然観察等淀川の自然に親しむ場として活用しやすくします。また、移動しやすさが改善することで、両公園の連携利用がしやすくなるようにします。**

◆整備内容

1. 開園区域の拡大（つながりの改善）

- ・隣接する桂川河川敷公園との一体的な利用を促進するため、開園区域を拡大し、**園路やサイン**を設ける。

2. 自然観察の場としての利活用（魅力の向上）

- ・**今ある自然資源(オギ群落など)を活用した、淀川の自然に親しめる場を設ける。**

8